

知恵の時代の都市新生研究会（第7回）議事要旨

1 日 時 平成 12 年 11 月 28 日(火)12:00~14:00

2 場 所 経済企画庁会議室(708,709 号室)

3 出席者

(委 員) 小林 重敬 座長

市川 宏雄、門野 史明、神藏 孝之、塩谷 隆英、白石 真澄、
藤 賢一、永瀬 伸子、西村 清彦 の各委員

(事務局) 中名生事務次官、牛嶋局長、永谷審議官、塚田審議官 他

4 議 題

知恵の時代の都市新生研究会報告書(案) ~ 知恵を活かし知恵を育むまち ~

5 審議内容

事務局より知恵の時代の都市新生研究会報告書(案)を説明の後、委員による討議が行われた。主な概要は以下のとおり。

(A 委員)

「知恵が支えるまちづくり」の中で育児、高齢者、とくと他の人はどうなったの
だろうという気がする。

育児自体の問題として、子供がコミュニティーの中で育つということが重要で、家
庭内の密室保育ではなく地域で育つ、というつながりではないか。

(審議官)

地域で子供を育てる視点が大事というのはその通りであるが、ここでは報告書のま
とめ方として、今まで十分活かされなかった女性の知恵を活かす環境をつくるこ
ういう流れで書くことを了解していただきたい。

(A 委員)

育児サービスをどういう人が受けるかについては議論があるが、これまでは働いて
いる親のみだったのが働いていない人も受けられるようにする、ということが重要
ではないか。

(座長)

子供が地域の中の多様な育児の形で育つ。結果として、女性が、男女が活躍できる
場が生まれる。

(B 委員)

都市新生を具体化する2つのモデルプロジェクトについて、中身をはっきりさせない
方が自由な提案が出るのでむしろ良い。官民共同参加型の提案という方が良い。
また、モデルプロジェクトを出すにあたって、堺屋大臣が担当大臣を務めるインパ
ク(インターネット博覧会)を利用するとよい。インパクは各都道府県等の提案によ
り行うが、例えば東京都や民間の不動産会社等から総合都市モデルプロジェクトに

ついて、インターネットを使ってバーチャルな提案を出してもらおうというのはどうか。そうすれば、政策提案がしやすくなるので是非進めて欲しい。

(座長)

東京都の中でも、そういう動きがあるようだし、そのような力を引き出してあげることは考えられる。

(C委員)

新生都市のコンセプトについて、都心に人を集めるためには、コンパクトに集積して多様なライフスタイルの提案できるまちをつくれれば十分なのか。もう一步先に進んで、「命(健康)」と「心」がキーワードとして考えられないか。ものだけでは、もう人を惹きつけられないのではないか。つまり、水や空気などの環境、やすらぎや心を癒すというようなことを表現できないか。建設省の幹部の方が言っている「五感を刺激する都市」や「五感で感じる都市」というコンセプトはどうか。

(座長)

アメリカのニューアーバニズムでは、「様々な生活環境」だけでなく「様々な生態環境との共生」という考えをうたっている。

(D委員)

人々の目がいくのは最後のプロジェクトの話になると思う。ここに総合都市居住プロジェクトとあるが、都市の居住にもバリエーションがあり、都心の少し外側の地域をどうするかも考えないといけない。また、大都市新生プロジェクトというのは臨海地域のイメージであるが、都市によっては、必ずしも臨海地域ではないかもしれない。人が住んで、既存の産業とも結びついて、さらに情報産業にも触れるという都市型産業の話が入れば、もっと質の高いものになるのではないか。

6 今後のスケジュール

最後に、座長から、報告書のとりまとめ、公表などについて座長一任とさせて頂きたい旨述べたところ、委員により了承された。

以上

なお、本議事要旨は、速報のため、事後修正の可能性はある。

(問い合わせ先)

経済企画庁総合計画局計画課

増島 Tel:03-3581-9380

経済企画庁総合計画局経済構造調整推進室

前川 Tel:03-3581-0783